

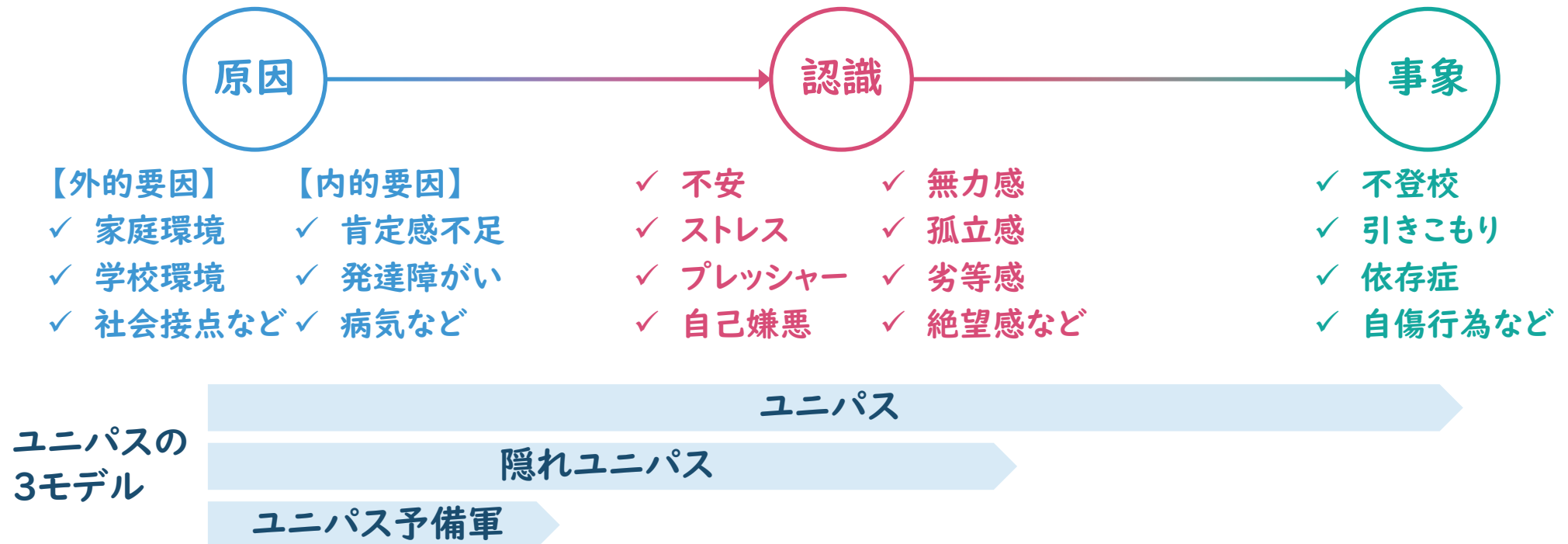
- ✓ 生きづらさを抱えながら、ユニークな道を歩む子どもたちのことを、私たちは「ユニパスさん」と呼んでいます。

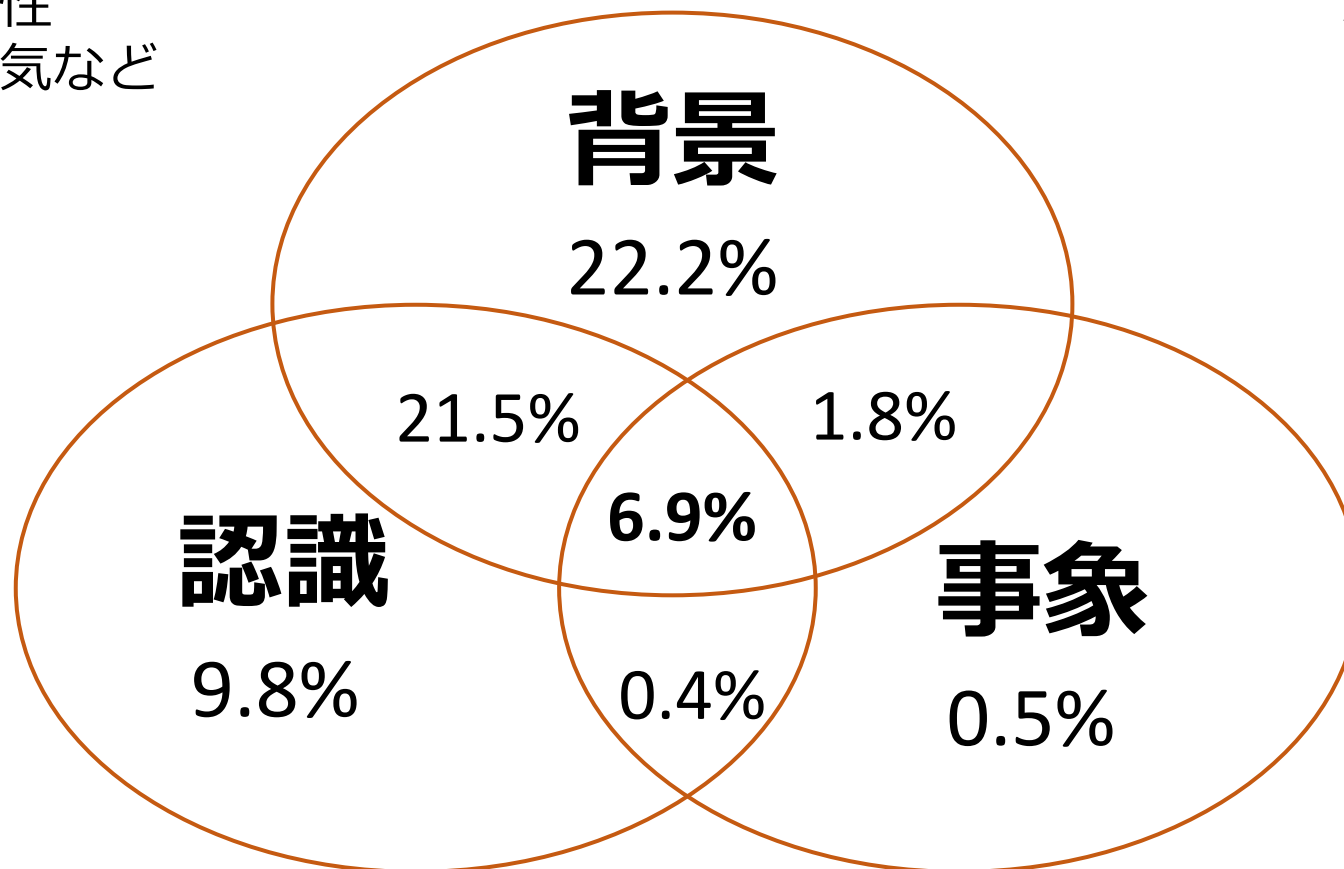
何らかの“生きづらさ”を感じているこどもたち

右のいずれかに
該当する子どもたち

今後“生きづらさ”を引き起こす何らかの背景を持っているこどもたち

“生きづらさ”に起因するユニークな経験をしているこどもたち





= ユニパス

第2回 生きづらさってなに？の感想

「子どもの課題というより、大人側の影響・課題のほうが大きいのでは？」という気づき

- 子どもたちの生きづらさを考える貴重な時間をありがとうございました。「子どもの課題」というよりも、大人の影響のほうが大きいのではないか、というお話にハッとさせられ、とても勉強になりました。
- 目に見えている部分だけでなく、その奥でつながっている部分、深掘りして初めて見えてくる部分があり、子どもよりもまず自分自身を見つめ直す必要があるのだと感じました。
- 中高生の生きづらさには、本人自身の問題と、本人の努力では解決できない問題の両方が確かにあります。今日のお話にもあったように、大人の側の問題や課題のほうが大きいのかもかもしれません。家庭のことも学校のことも、子どもにはどうしようもない部分があるのだと、アンケートからも感じられました。
- 私自身、参加者の方のお話を聞きながら、過去の親子関係や自分自身を振り返る時間にもなりました。

さまざまな団体・地域からの参加への驚き

- さまざまな団体や拠点から参加者が集まっていたことも、とても新鮮でした。
- 「愛媛からの参加でもいいのかな？」と思いながら参加したのですが、香川県外の方も来られていて心強く感じました。
- 他県から参加されている方がいて驚きました。
- 当事者だけで何とかしようともがきがちですが、当事者以外の視点があること、そして真剣に向き合ってくださっている、これまで知らなかった分野があることを知ることができました。
- 不登校は社会的にもかなり認知されるようになり、居場所やシステムも整いつつあります。それでも、整うまでには時間がかかり、地域差もあって、身の回りの不登校支援はまだまだだと肌で感じることも正直あります。けれど今回、セッションなどを通して、見えないところ・見えていなかったところでも不登校支援に関わろうとしてくださっている方々がいるのだと知り、心強く思えました。

大人の価値観や解釈を持ち込まずに、子どもの本音・生の声を聴くことの重要性和難しさ、そして信頼関係の必要性

- 子どもの生きづらさについて、とても考えさせられました。生きづらさと言ってもさまざまで、大人がいかに関わり添えるかがポイントなのだと思います。自分にできることを改めて考える時間となりました。
- 我が子が中学生のとき、学校へ行けない理由を一切口にせず、私は途方に暮れていました。けれど今思えば、理由はいくつも重なっていて、何をどう言えばいいのか言語化できなかったり、話せば親が心配するだろうと気を遣ったり、先生のこと、部活の顧問のこと、もちろん家庭内のことなど、本人なりに思い悩んでいたのかもかもしれません。当時の私には、それが理解できていませんでした。
- 子どもの正直な気持ちを、大人の意見や価値観を持ち込まずに聴くこと——その難しさゆえに、これまで子どもたちの声を聴けずにきてしまったように思います。子どもが本当の気持ちを話すには、聴く側との信頼関係が欠かせません。私自身もまだまだですが、少しずつでも子どもたちの声に耳を傾けていきたいと思っています。

子どもアンケートの「生の声」とユニパスの三層構造について

- 子どもたちのアンケートを通して生の声を知ることができ、とても良かったです。つい「〇〇だろう」「良かれと思って」と親目線で勝手に解釈したり、自分の経験だけで「普通は〇〇」「～すべき」と関わってしまいがちで、今もなお、親子のズレや違いを認められない・許せない部分があるのだと改めて気づかされました。子どもの本音や、子どもの視点から見える世界に少しでも触れられたことは、大きな収穫でした。
- 「三層構造」という枠組みも、とても興味深く感じました。